

【問い合わせ先】
秋田海上保安部
交通課長 三澤 守
電話(018)845-1624
FAX(018)846-0095



令和 8 年 1 月 9 日
秋 田 海 上 保 安 部

令和 7 年の秋田県における海難発生状況（速報値） ～船舶事故は増加するも、人身事故は減少！～

船舶事故は **15 隻**（前年 **9 隻**）で、死者・行方不明者は **0 人**（前年 **0 人**）でした。

人身事故は **17 人**（前年 **25 人**）で、死者・行方不明者は **7 人**（前年 **13 人**）でした。

1 令和 7 年の秋田県における船舶事故発生状況（別紙 1 参照）

○船舶事故は **15 隻**で前年と比べ **6 隻**増

○船舶事故に伴う死者・行方不明者数は **0 人**で前年から増減なし

【傾向】

○船種別では漁船が全体の **33%**となる **5 隻**で最多。次いでプレジャーボートが **4 隻**。

○事故種類別では運航不能が全体の **60%**となる **9 隻**で最多。次いで衝突（単独衝突を含む）が **4 隻**。

○船舶事故に伴う死者・行方不明者は無かった。（前年も無し）

◎令和 7 年は小型船舶（**20 トン**未満の漁船やプレジャーボート等）による事故が前年の **7 隻**から **12 隻**に増加した。

2 令和 7 年の秋田県における人身事故発生状況（別紙 2 参照）

○人身事故は **17 人**で前年と比べ **8 人**減

①船舶事故によらない乗船者の事故は **5 人**で前年と比べ **1 人**増

②マリンレジャーに伴う事故は **4 人**で前年と比べ **5 人**減

③マリンレジャー以外の事故は **8 人**で前年と比べ **4 人**減

【傾向】

○船舶事故によらない乗船者の事故は貨物船で **2 人**、漁船、作業船、プレジャーボートでそれぞれ **1 人**発生した。

船舶事故によらない乗船者の事故内容は海中転落が全体の **60%**となる **3 人**で最多。

○マリンレジャーに伴う事故は遊泳中が **3 人**、釣り中が **1 人**発生した。

マリンレジャーに伴う事故の事故内容は帰還不能が全体の **75%**となる **3 人**で最多。

○マリンレジャー以外の事故は自殺が **6 人**、海中転落が **2 人**発生した。

◎令和 7 年はマリンレジャーに伴う事故（釣りや遊泳等）が前年の **9 人**から **4 人**に減少した。

3 今後の事故防止の取組み

海は、海上交通や漁業、マリンレジャーといった様々な活動の場として利用されていま

すが、時に衝突、転覆等の船舶事故やマリンレジャー活動に伴う海中転落、帰還不能等が発生する危険な場所でもあります。

秋田海上保安部では、次のとおり、船舶交通の安全確保や海浜事故防止に関する様々な対策を講じるとともに、県民の皆様が安全に安心して海での活動が出来るよう、周知・啓発活動を行い、海難の未然防止に努めます。

(1) 船舶事故に対する事故防止対策

船舶事故は、依然として漁船やプレジャーボートによる運航不能や衝突（単独衝突を含む）事故が多く発生していることから、関係機関・団体と連携して漁業者、プレジャーボートユーザーに対する海難防止講習会や訪船指導の機会を捉え、

○自船の安全確保 3 か条

- ①発航前、機関や燃料等の点検及び整備事業者による定期的な点検の実施
 - ②航行時、常時適切な見張りの徹底
 - ③故障時に備え、救助支援者の確保
- を重点的に呼び掛けていきます。

(2) 人身事故に対する事故防止対策

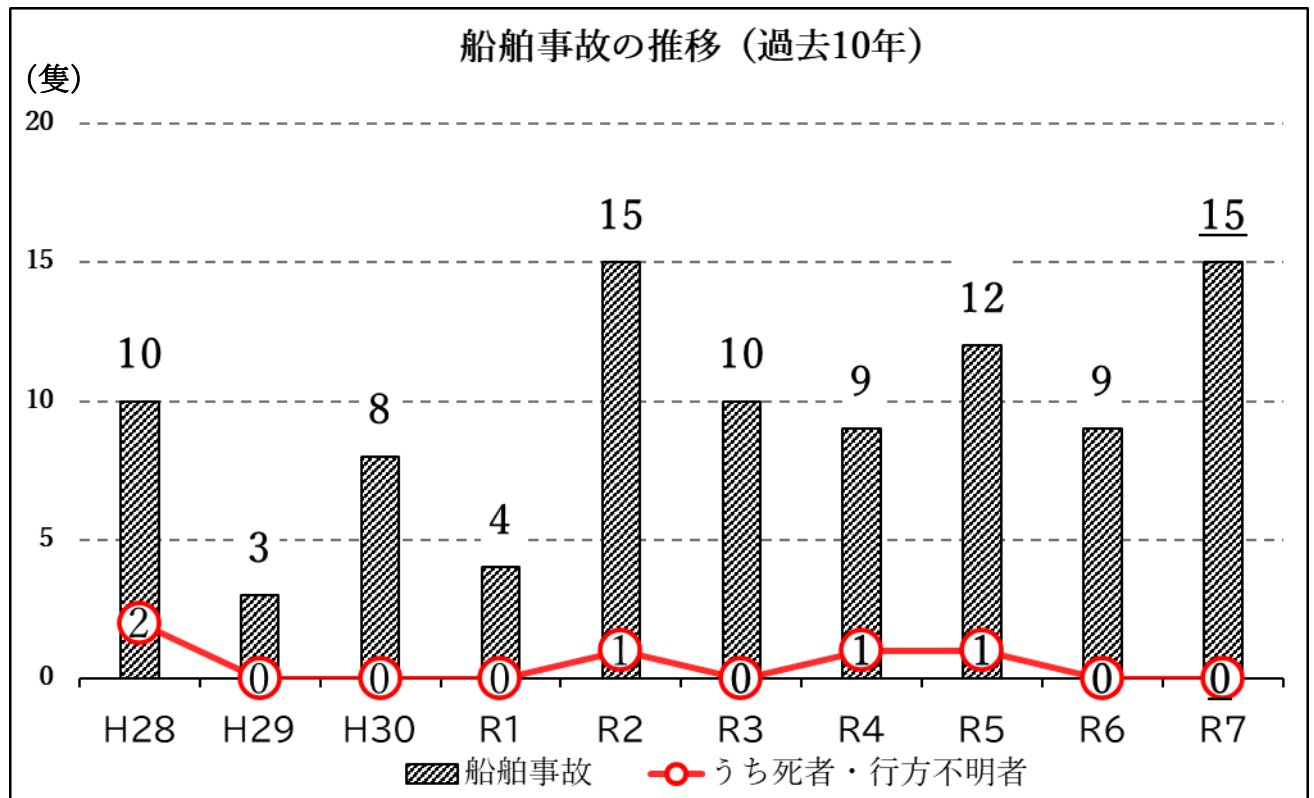
船舶事故によらない乗船者の人身事故は、漁労や荷役作業等船上での作業中における海中転落や負傷が多く発生していることから、

○自己救命策 3 つの基本

- ①ライフジャケットの常時着用
 - ②防水パック入り携帯電話等の連絡手段の確保
 - ③「118 番」及び「NET118」の活用
- や、慣れた作業でも油断せずに安全管理を徹底して作業すること等を重点的に呼び掛けていきます。

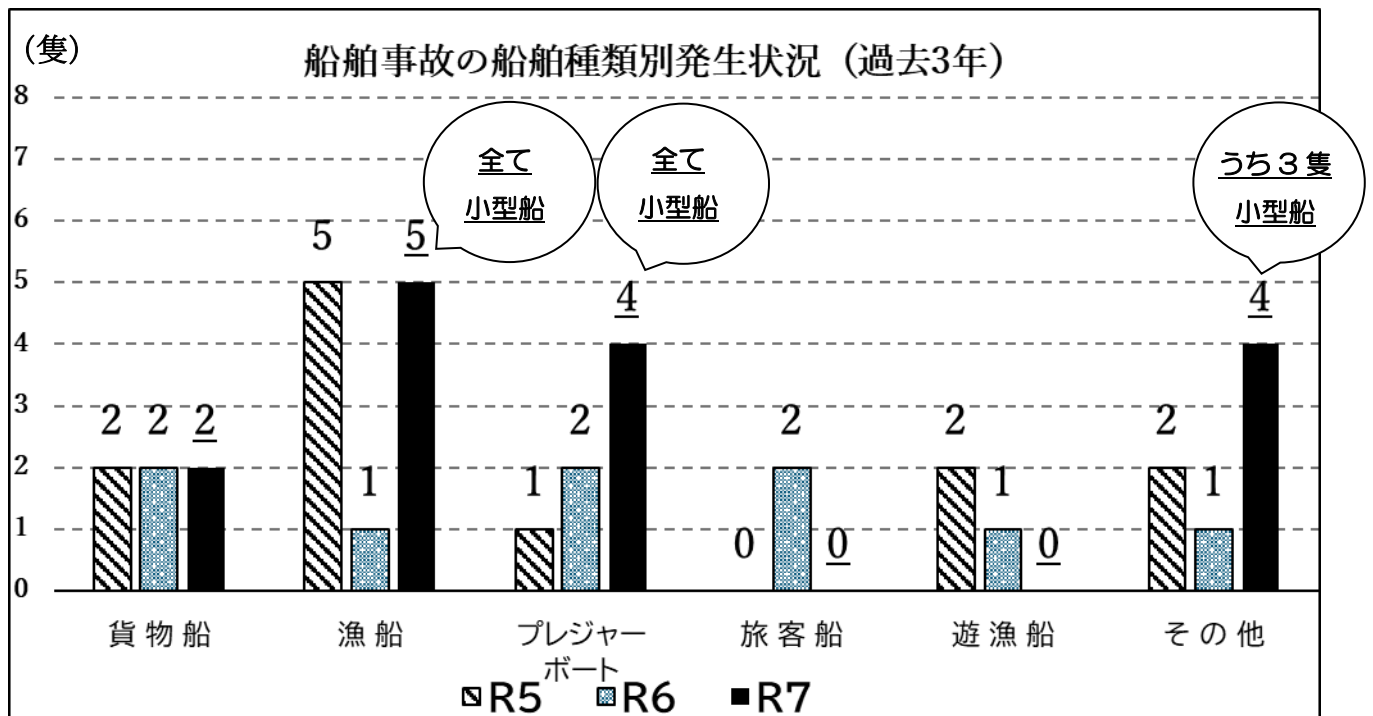
マリンレジャーに伴う海浜事故は、前年に比べ減少したものの、遊泳中や釣り中の帰還不能や海中転落事故が発生していることから、遊泳者に対しては「開設された海水浴場で泳ぐこと」、釣り人に対しては「自己救命策 3 つの基本」や「複数人での行動」、「家族や友人への目的地・帰宅時間の連絡」等を重点的に呼び掛けていきます。

また、海浜事故の未然防止については、小中学生に対する指導が重要であることから、機会を捉えて海の安全教室を実施し、水辺における注意点や自己救命策の指導を行います。

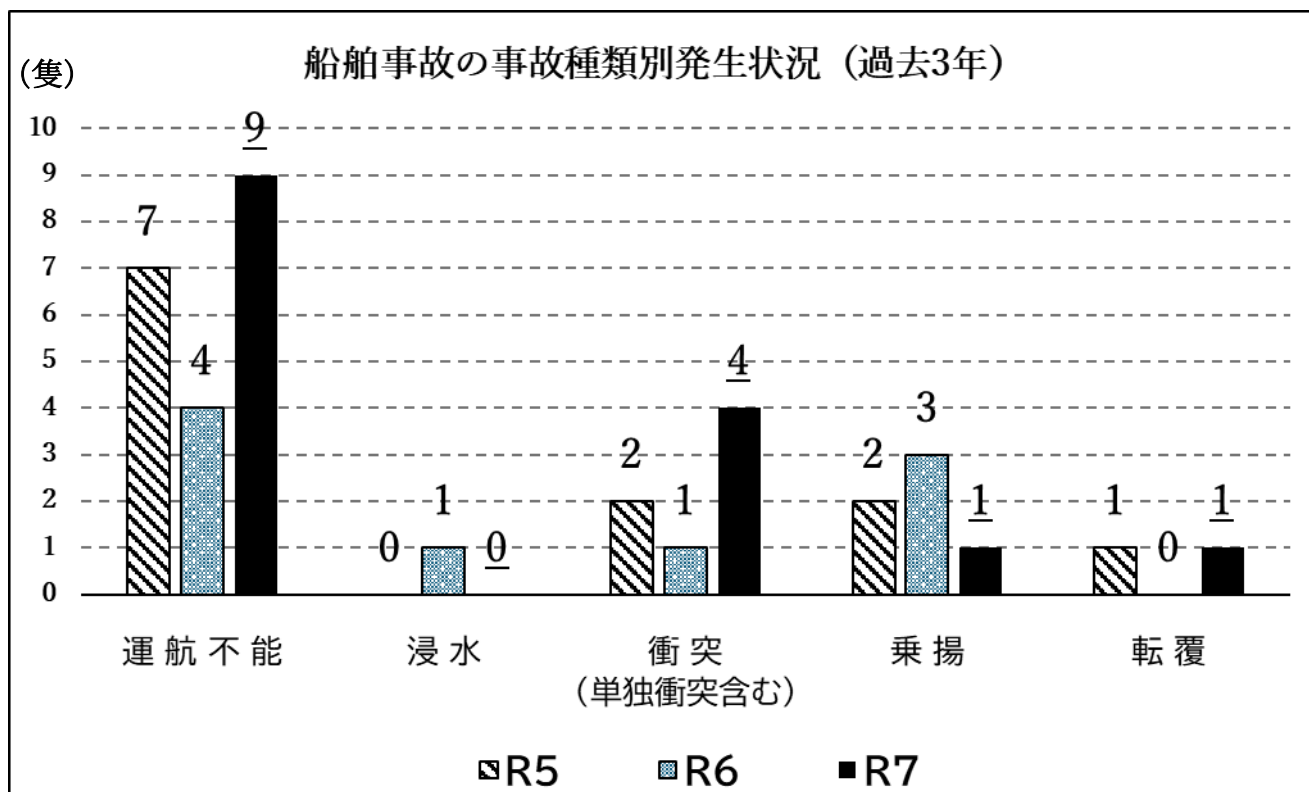


※過去 10 年では、令和 2 年に並ぶ最多の事故隻数。

前年に比べ 6 隻の増加



※前年に比べ旅客船が 2 隻、遊漁船が 1 隻減少したものの、漁船が 4 隻、プレジャーボートが 2 隻、その他（作業船等）が 3 隻増加。貨物船は増減なし。



※前年に比べ乗揚が2隻、浸水が1隻減少したものの、運航不能が5隻、衝突（単独衝突を含む）が3隻、転覆が1隻増加。

☆用語の解説

・船舶事故

海上において船舶に次のいずれかに該当する事態が生じた場合をいいます。

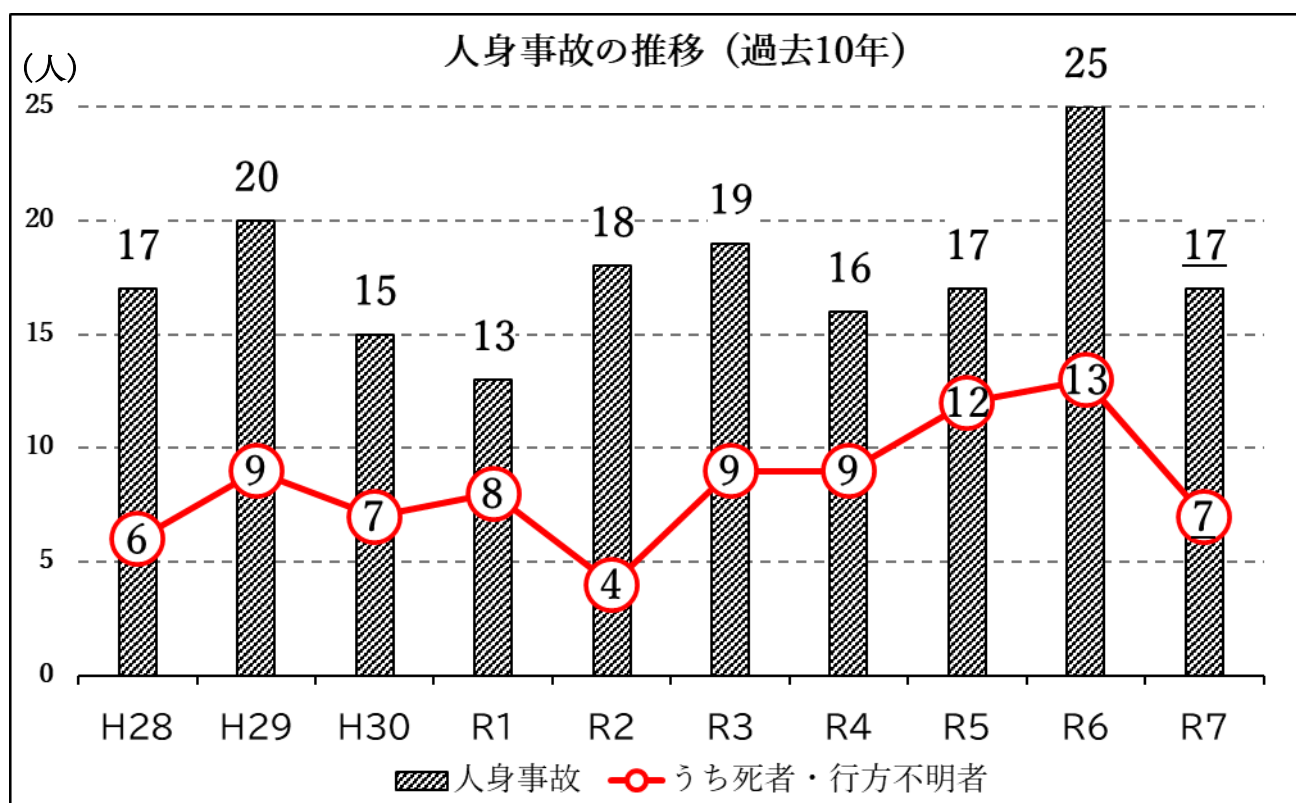
● 衝突・乗揚・転覆・浸水・爆発・火災・行方不明・運航不能

・衝突（単独衝突を含む）

船舶が他の船舶に接触し、いずれかの船舶に損傷が生じた場合をいい、単独衝突は船舶が物件（岸壁や防波堤等）に接触し、船舶又は物件に損傷が生じた場合をいいます。

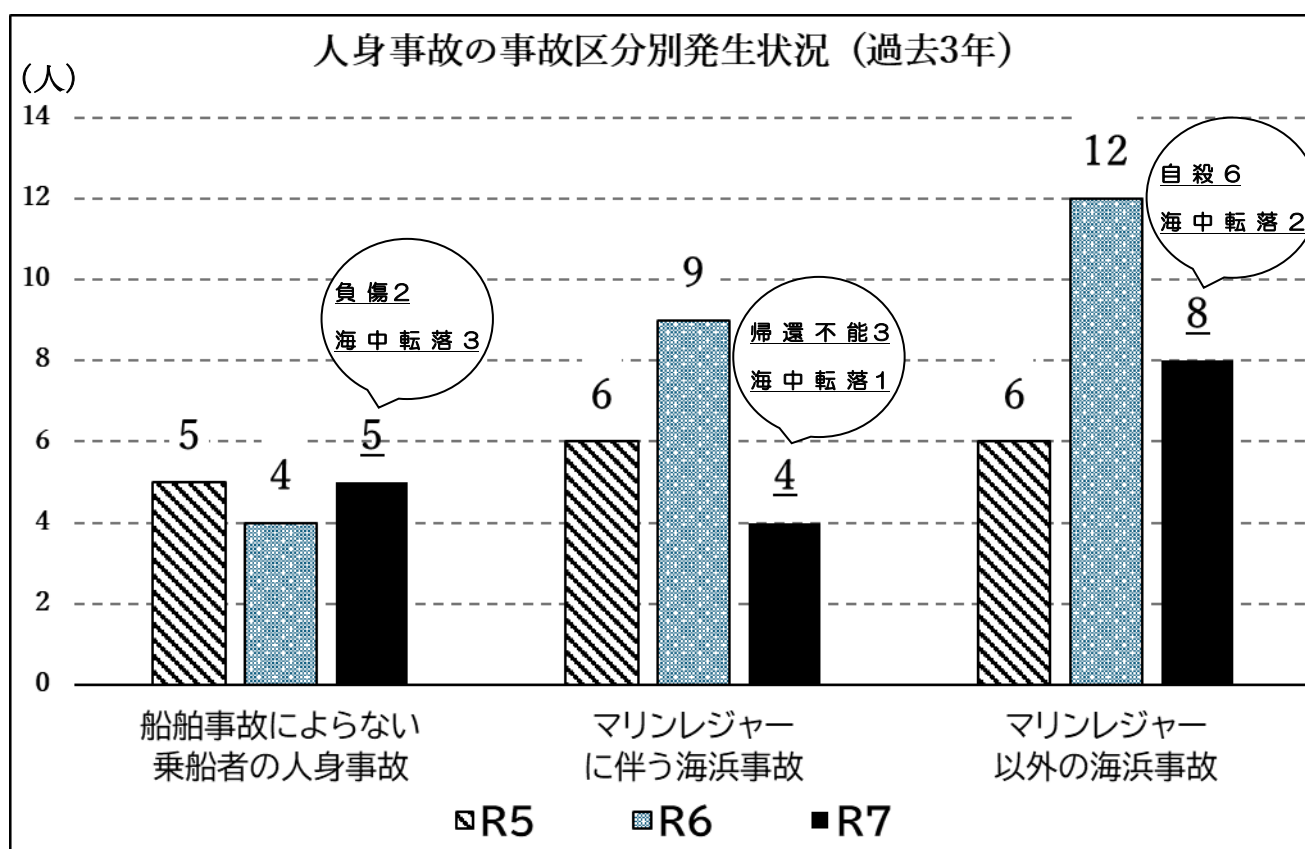
・運航不能

運航に必要な機関、推進器等の故障、燃料の欠乏等により船舶の航行に支障が生じた場合をいいます。

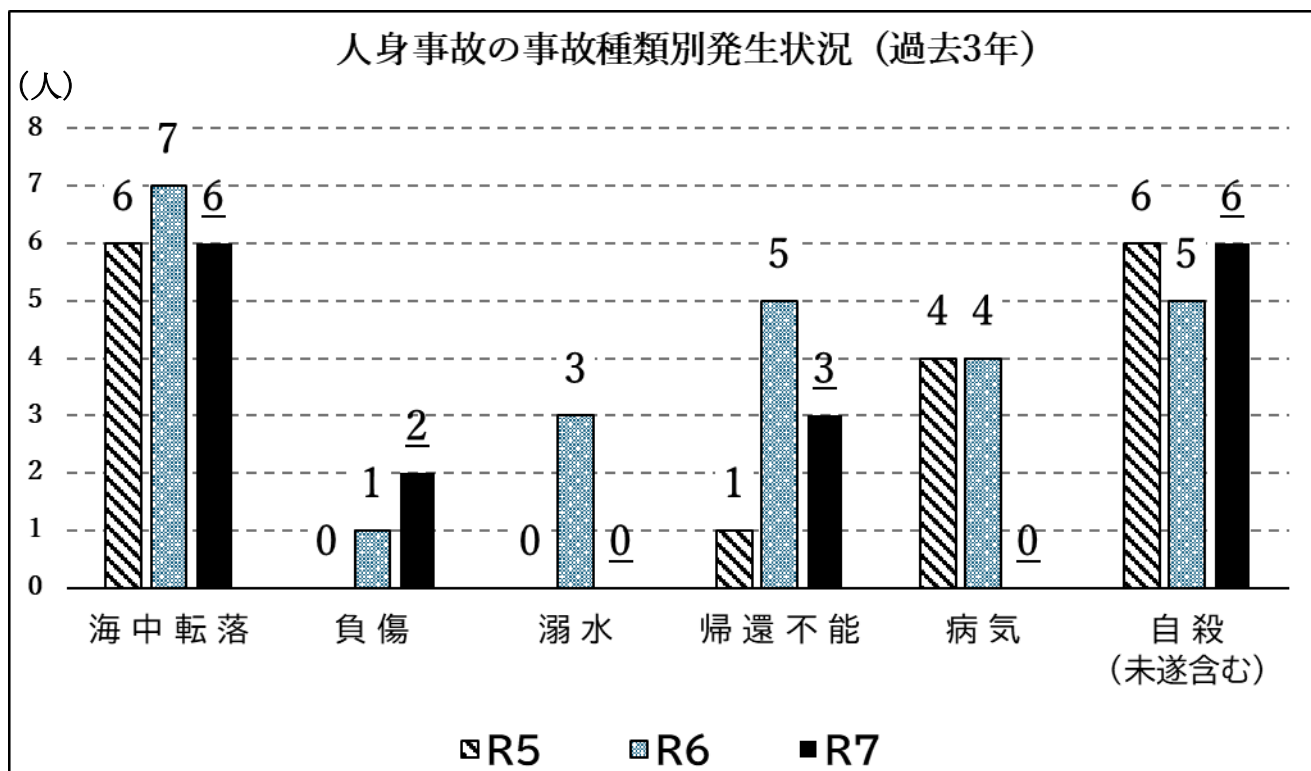


※過去10年では、4番目に少ない事故者数。

前年に比べ8人の減少、死者・行方不明者も6人減少。



※前年に比べ船舶事故によらない乗船者の人身事故は1人増加したものの、マリンレジャーに伴う海浜事故は5人減少、マリンレジャー以外の海浜事故も4人減少。



※前年に比べ負傷と自殺が1人増加したものの、病気が4人、溺水が3人、帰還不能が2人、海中転落が1人減少。

☆用語の解説

・人身事故

海上又は海中において次のいずれかに該当する事態が生じた場合をいいます。

- 船舶事故によらない乗船者の海中転落、負傷、病気、中毒等
- 海浜等において発生した乗船者以外の者の負傷、溺水、帰還不能等

（マリンレジャーに伴う海浜事故とマリンレジャー以外の海浜事故に区分）

・船舶事故によらない乗船者の人身事故

衝突、乗揚、転覆等の船舶事故以外の事由により発生した船舶の乗船者の海中転落、負傷、病気等をいいます。

・マリンレジャーに伴う海浜事故

海水浴、釣り、潮干狩り等の海洋における余暇活動に伴って発生した事故をいいます。

・マリンレジャー以外の海浜事故

余暇活動に伴うもの以外の海浜において発生した事故をいいます。

・帰還不能

漂流、孤立等により保護が可能な陸岸に戻れない状態となった場合をいいます。